

午後 2 時00分 開会

○事務局（小野） 定刻となりました。委員の先生方には、ご多忙のところご出席いただきまして、ありがとうございます。

早速ですが、ただいまから令和 6 年度第 3 回岡山市環境総合審議会を開催させていただきます。

（中略）

○藤原会長 本日は、足元の悪い中、岡山市環境総合審議会にご出席くださいまして、誠にありがとうございます。

前回、環境基本条例、そして保全条例につきましては、皆様から熱心な意見をいただきまして、会議としても充実した成果が出せたのではないかというふうに考えております。その節はどうもありがとうございました。

今回は、次期に向けての基本計画の策定ということになりまして、条例を踏まえた上で、また今進行しているいろいろな環境の事情を踏まえた上での今後の計画を立てる必要があるということです。皆様ご存じのように、アメリカが温暖化に対しては後ろ向きの姿勢を、トランプ大統領になってから取るようになったり、いろいろなところで少し環境に対して後退といいますか、後ろ向きなところが出てきていることを懸念しております。そういう、一度環境の分野に対して努力を怠ると、この後の、温暖化であれば温度上昇が止まらなくなって対応の遅れが生じるということで、今足止めをされるということは、重大な懸念につながると考えております。ですから、日本はぜひ世界のそういう環境の政策的な方向性に惑わされず、環境のことはしっかりと議論して、我々の地球を守っていく必要があるのではないかというふうに思っています。

その一番の足元がこの岡山市の環境計画でございますから、ぜひ皆さんの知見を出

していただきまして、実りのある会議にしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、審議事項に入ります。

審議事項ごとにご意見、質問をいただくことといたします。委員の皆様には、議事進行にご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、（仮称）第3次岡山市環境基本計画の骨子案について、事務局のほうからご説明願います。

○事務局（小野） それでは、ご説明をさせていただきます。

まず、今回の審議事項の説明の前に、振り返りとしまして、昨年度（仮称）第3次岡山市環境基本計画の策定について審議いただいた内容を簡単にご説明をさせていただきます。

まず、事前に送付いたしました参考資料の4と5の準備をお願いいたします。

まず、これまでの岡山市の環境基本計画の変遷としまして、平成10年3月からの第1次環境基本計画から、来年度いっぱいまでの第2次環境基本計画となっております。概要については、スライドに表示しております。

本計画の位置づけのご説明になります。

環境基本計画につきましては、市の最上位計画である総合計画の中の環境分野に関する基本的な計画という位置づけになっております。また、こちらは昨年度の資料になっておりまして、改正予定となっておりますが、4月1日から環境保全条例から、こちらが環境基本条例となっております、それに基づいて環境基本計画が策定されることとなっております。また、総合計画のほか、そのほかの個別計画であるとか、環境分野の中でも生物多様性の地域戦略であるとか、地球温暖化対策の実行計画であるとか、こういった個別計画とも整合を図っていくようになります。

基本計画の策定体制のご説明になります。

こちらは、この環境総合審議会につきましては、昨年度に諮問をさせていただきます

して、この計画について来年度いっぱい審議をいただく予定です。また、自然環境保全審議会もしくは公害対策審議会などの各環境分野の審議会にも、必要に応じて諮る予定です。

計画の概要になります。

計画の対象については、また改めてご説明を、新しい計画についてはご説明をさせていただきます。名称については、（仮称）第3次岡山市環境基本計画、対象区域は岡山市全域、計画期間としては、令和8年度から10年間の計画の予定をしております。

策定のスケジュールになっております。

こちらについても改めてお示しをしますが、今年度が骨子について1回目の審議になります。また、来年度以降は、原案であるとか修正案であるとかの案をそれぞれ審議会で審議いただく予定です。来年度については、合計3回審議会を開催させていただく予定になっております。

今後の、次の基本計画の策定方針としまして、SDGsを取り入れた計画にすることとしております。また、こちらのSDGsの視点を取り入れた計画としまして、環境像から振り返って現在すべきことを考える、バックキャストという考え方を活用した計画を進めていく予定です。

最後に、計画のフレームになるんですが、こちらが全体の環境像であるとか、そこから環境目標、さらに行動目標、そして具体取組という構成を検討しております。また、重点的な取組として、リーディングプロジェクトを入れる予定です。

振り返りとしては以上になります。

○事務局（小野）　ここまでが昨年度、諮問の際にご説明をさせていただいた説明の内容になります。

続けてになりますが、株式会社地域環境計画の根岸様から、審議事項の詳細について説明いただきます。内容としましては、近年の国内外の動向であるとか、今年度実

施いたしました市民・事業者アンケートの結果、そして現行の第2次環境基本計画の成果指標の進捗状況を説明いただき、骨子となる計画の対象分野や施策体系についてご審議いただきます。

それでは、根岸様、よろしくお願いいたします。

○根岸 株式会社地域環境計画の根岸でございます。本日はよろしくお願いいたします。

資料のほうを準備させていただきます。お手元にもございますでしょうか。パワーポイントのほうになります。

それでは、説明のほうを始めさせていただきます。

今回の全体の構成としましては、まず今回の見直しに向けて、背景の整理というのをいたしました。それが1番の社会動向になります。そして、2番目、市民の意識・意向ということで、市民アンケート調査というのを今年度実施しております。これが主な今年度の調査になります。こちらのご報告をさせていただきます。さらに、3点目、岡山市の環境の現状と課題ということで、こちらは市内のほうでこれまでの成果について調査いただき、そちらの評価のほうもしておりますので、そちらのご報告になります。そして、4番目、5番目につきましては、計画の基本事項、そして施策体系の骨子案ということで、先ほど小野様からご説明いただきました、これまでの総合審議会の中で審議いただいた、その体系に合わせた形での新たな計画の全体像というものの基本事項をご説明させていただきます。そして、最後に次年度のスケジュールということで資料を作成しております。

それでは、進めさせていただきます。

まず、社会状況ですが、国のほうから新たな国の方針としまして、第6次環境基本計画のほうで次のような大きな方針が示されております。

第5次環境基本計画の地域循環共生圏ということから、さらに発展しましてウェルビーイング、あるいは高い生活の質というものを求めた社会をつくるという形になっ

てきました。具体的には、2050年のカーボンニュートラルの実現、そして循環経済、サーキュラーエコノミーの推進、自然共生社会の構築、ウェルビーイングの向上、こういったことが挙げられております。

今回、岡山市でも環境基本計画を見直すに当たりまして、まず前提としまして、SDGs、これは計画年2030年ですが、環境基本計画自体の計画年はそれより先まで続きますけれども、前提としてのこのSDGsで目指すものというものは、同様に背景として捉えておくというところで、先ほどのカーボンニュートラルの推進、あるいは経済社会活動の変革ということで、サーキュラーエコノミーの視点、そしてまず地球の限界、プラネタリー・バウンダリーという現在我々が置かれた現状というものを、しっかり危機感を持って捉えるという整理を加えていきたいと考えております。

ネイチャーポジティブの実現につきましては、こちらは主に自然環境系、生物多様性系の話になりますが、ネイチャーポジティブの実現という部分をしっかり示していくということになります。

それらの整理結果は、次年度にまた示させていただく予定ですが、現在そのような整理を進めているという状況でございます。

続きまして、こちらは今年度調査させていただきました市民アンケートの結果のご説明、ご報告になります。

まず、市民アンケートの調査概要ですが、アンケート自体は3種類、それぞれ対象を分けて実施いたしました。主に学生、そして市民、事業者の3種でございます。回収率はこちらにお示ししたとおりになっておりまして、学生が88.5%、事業者が47.0%ですが、市民が若干低い27.9%というような状況でございました。

全体の調査結果の概要を以降、ご説明させていただきます。

まず、中高生のアンケート結果ですが、代表的なものだけ今回抽出してご説明させていただきますと思います。

例えば、中高生、これは問いを出した中で11問目の部分になるんですが、気候変

動、地球温暖化の影響について、岡山市で気候変動の影響を受けていると感じるものはどんなものがありますかという質問をしたところ、熱中症など、健康リスクなどの増加、これの選択肢が多かった、このような結果が出ております。また、岡山市での取組、ゼロカーボンシティのことであったり、あるいは地球温暖化を止めるための対策について知っていますかというようなことに対する回答は、このような形になっているというような状況でございます。

次ですが、こちら温暖化についてなんですけれども、地球温暖化対策について、そもそもどう思いますかと聞いたところ、とても重要な問題だと思う、あるいはその下の問いでもそうですが、地球温暖化対策をしたことによって、多くの場合、生活を豊かにすることになるんじゃないかというような回答を選択している中高生が多い割合だということが分かります。それで、こちらの問いを見ていただきますと、こちらは温暖化に対してどのような対策が必要か、具体的なイメージを持っていますかという問いですが、これは何となく持っているといったぐらいで、まだまだ中高生ぐらいだと具体的なイメージというのが持てないというような状況かなということが分かります。

それで、こちらが、続きましてプラスチックごみの状況であったり、サーキュラーエコノミーということについて問いかけてみたものになりますが、まずプラスチックごみですと、最も問題だと思うものでは、上の2つですね。海ごみ、これに関連するプラスチックごみということに対しては比較的認識があるようでした。次の部分も同じですが、海の生物がプラスチックごみによって被害を受けているということに対する認識も高いような結果でございました。

隣のサーキュラーエコノミーの取組についてですが、こちらについては、とても重要な取組だと思うというのが約半数近くある一方で、分からないという回答も多い状況でした。ですので、まだまだこのあたりへの認識は低いというようなことが、これらの結果から分かります。

以上よりまとめますと、まず地球温暖化の影響について、熱中症などの健康リスクの増加が突出して多かったこと、あるいは地球温暖化対策の認知度は高く、重要性の認識も高いが、対策の有効性の具体的イメージについては、何となく持っているという回答が6割を超えたという状況であること、また岡山市がゼロカーボンシティを目指していることについては、8割以上が認知していなかったという状況でした。そして、プラスチックごみによる海の汚染については、生物への影響を問題視する回答が多かった、あるいはサーキュラーエコノミーについては分からないというのが4割近くとなり、十分な理解が得られていなかった、こうした傾向が見られたというところでございます。

整理しますと、温暖化への影響への認識は高いが、具体的な対策への理解は不十分な状況、そして環境対策、取組内容への普及啓発や理解の醸成が必要な状況というように考えております。

続きまして、市民アンケートのほうになりますが、こちらは選択肢が少し多かったもので、ざっと一覧で示させていただいておりますが、あなたの家では日頃どのような環境保全、または環境によい活動をしていますかというような問いに対しまして、赤いアスタリスクをつけたものが、選択率が高かったものでございます。例えば、一番左側の上、買物はマイバッグを持参するであったり、あるいはその次のアスタリスク、ごみをきちんと分別して、リサイクルにも協力するといったことで、身近なことについてはできることをやっているという市民が多いような結果が示されました。

続きまして、どの程度そういった活動に取り組んでいますかということについては、時々取り組んでいるという回答が最も多く、問題意識を持って常にやっているということではないような状況が見てとれます。また、ほとんど取り組んでいない、全く取り組んでいないと回答された方から、その理由はなぜですかと聞いたところ、やり方が分からないという部分もございましたので、まだまだ普及啓発が足りない部分もあるのかなということがこちらから示唆された形となります。

続きまして、地球温暖化対策についてはどう思いますかという質問ですが、とても重要な取組だと思う、あるいは対策をすることは、多くの場合生活を豊かにするものであるというふうな回答をされた市民がそれぞれ65.0%、40.2%と高かったんですが、実は中高生よりも低い結果となりました。ですので、意識としては市民のほうはまだまだ十分醸成されていないのかなという部分も見てとれた結果となります。

続きまして、こちらは現在取り組んでいる活動は何ですかというご質問になりますが、身近なところで省エネルギーの機器への買換えであったり、エアコン、冷蔵庫などの環境配慮製品を導入することですね。こちらについては、56.0%と半数以上の方が選択してくれました。ただ、一番多かったのは、一番下にありますごみの分別や排出抑制といった身近なところからできること、これが79.0%で多かったというような結果でございます。

全体をざっとご説明していくと、このような形になりますが、次のシートに行ってみますと、すみません、ちょっと飛んでしまいました。17ページですね。

すみません、17ページですが、これの左側のグラフ、岡山市の環境保全に関する取組で、あなたが重要と感じる項目は何ですかという質問もしましたが、選択肢は非常に多いんですけれども、上からこれは多い順に並べております。それで、一番上は歩道の安全性、快適性ということでしたが、2番目に災害に強いまちづくりということが来ております。これも現在の時代背景に合った、皆さんの危機意識というものが現れた結果かなというふうに考えております。

それ以降4つは、ごみリサイクルに関するものでございました。さらに、それにつながる部分がまちなかの緑ということで、ここで初めて自然に関する結果が出てきております。その次がCO₂対策ですね。こちらが出てきているということで、市民の意識の関心事というのは、このあたりに多いという結果が分かるかなと思います。

それでは、続けさせていただきます。

隣のグラフになりますが、あなた自身が環境保全の取組に関わろうとするときに、行動に対してどのようなことを望みますかということで、真ん中の部分が一番多くなっておりまして、これは子供たちへの各種体験活動や環境教育の推進というものが高くなっております。これも一つの特徴かなと思います。

以上をまとめますと、この一番下の四角の枠の中にまとめましたが、日常的、身近な環境対策には取り組んでいる市民が多いものの、まちなかの環境への意識や子供への体験活動、環境教育を望む声が多い状況で、実は大人への環境教育というのも必要とされているのかもしれませんが、そのあたりにつきまして、今回新たな計画を立てる段階で、ぜひ皆様にご審議いただきたいところと考えております。

それでは、続きまして、事業者のほうの説明に入らせていただきます。

こちらと同じく、事業者のほうで日頃環境保全、または環境によい行動にどの程度取り組んでいますかという質問の回答になりますが、赤いアスタリスクがついているものが回答率が高かったものになります。皆さん、クールビズ、ウォームビズ~~ウオーム~~
~~ムビズ~~といった運動を社内で進めていたり、あるいは冷暖房の温度設定を適切に、省エネに努めるといった活動をしてくださっていることが分かります。

次をお願いします。

次が、こちらは設問表を今回はお示しさせていただいたんですが、実際事業者様のほうでどのような適応策に取り組んでいらっしゃいますかという設問をさせていただきました。それが細かい設問になっているもので、こちらで設問のほうを出させていただきますが、これの回答が次のシートからになります。

例えば、気候変動に対してあなたの事業所で取り組んでいる適応策はありますかということで、対策機器を設置しているかどうかであったり、あるいは研修などを行っているかどうかであったり、関連商品の開発を行っているかどうかであったり、そういったことを細かく聞かせていただいております。その結果がこちらになっているということでございます。特に、事業者様のカーボンニュートラルに向けた現在の対応

状況ということをお聞きした設問が次のものになりますが、実は上記のいずれにも該当しないということで、なかなか対応をしていない事業者さんが多いということがここで分かります。さらに、サーキュラーエコノミーということについて知っていますかという問いに対しても、聞いたことがないというのが7割近くになっているという状況でして、まだまだご理解への浸透は少ないという状況かなと考えております。

ありがとうございます。マイクが戻ったようですので、すみません、では次に行かせていただきます。

岡山市の環境施策について、重要度を感じる項目は何ですかということで、市へ求める内容ですね。そちらをお聞きしたところ、例えばまちなかの緑や公園、緑地の整備であったり、歩道の安全性、快適性であったり、まちなかのごみ清掃、美化であったり、農地の保全といったことが事業者様からも挙げられているということがここで分かります。市民に限らず、そこで通勤等に関わっている事業者さんからも、こういった回答が出ているということが分かった結果となっています。

以上のことから整理させていただきまして、こちらに整理結果は示させていただいているんですが、次のページの一番最後のところに簡単に全体の結果を整理させていただきましたが、節電、省エネへの取組は浸透しているが、一方で導入には負担感があるとしている事業者さんも多いことが分かりました。また、再生可能エネルギーの重要性への理解、浸透は不十分であることも分かりました。さらに、緑化活動への取組は少なく、事業所と自然環境との共生に係る提案が必要な状況かなと考えております。また、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミー等、新しい環境用語、取組への理解や関心が不十分であることも課題かなというふうに考えられます。

以上が今回皆様にご報告させていただきますアンケート結果になるんですが、これ以外にも生物多様性に関する設問、そしてそのアンケートも取らせていただいております、その結果も整理しておりますが、それは参考資料の1のほうに示させていただいております。こちらの審議会と並行して市のほうで開催されております、自然環

境保全審議会のほうでそちらのご報告をさせていただきましたので、その結果を参考資料1に示させていただきます。ですので、後ほどまたご参照いただければと考えております。

以上がアンケート調査の結果でして、続きまして岡山市の環境の現状と課題ということで、成果指標の状況の整理をしたものが以降の報告になります。

こちらは、市のほうで庁内調査をかけていただき、全体の結果を整理いただきました。それで、第2回の環境総合審議会のほうで、おおむねご報告はいただいた内容ではございますが、この表の右の2列ですね。評価という列と次期計画の方針という部分が、その第2回よりも更新されておまして、各課でご検討いただいた結果をこちらに入れていただいております。

こちらは、皆様のお手元に参考資料2としてお渡ししているA3資料とも同じになりますので、ぜひそちらもご覧いただければと思います。今回は抽出して、それぞれ少し具体的に示させていただきました。

まず、このシートですが、環境目標1、「市民協働による環境づくりと快適な都市環境が実現しているまち」に対して、どのような状況で、次期計画に対してどうしていくかというものなんです、少し着目してみたいなと考えているものを太枠で囲っております。例えば、こちら、環境教育・環境学習に取り組もうという基本目標のところですが、地域環境教室の年間参加者数が目標値にまだ至っていないけれども、大分増えてきているので継続していきたい、そういった形の評価Bで継続、このような形で出ていたり、あるいはめだかの学校環境講座の年間参加者数も、目標値に対して1割程度ということで、まだまだけど継続していきたい、評価はCで継続、こういった結果が出ていたり、あるいは自然体験リーダー養成講座修了者の自然体験リーダーズクラブ登録者数、これは大分目標値に近づいてきたけれども継続しよう、こういったことがこれからの注目してみてもどうかというような点でございます。これは、あくまで現状なんですけれども、こうした市の意向を踏まえながら、次年度の計

画を策定していきたいというふうに考えているところです。

次の環境目標2のほうも見てみますと、こちらは目標は「豊かな自然環境の保全と共生が実現しているまち」ということですが、例えば上の太枠ですと、リフレッシュ瀬戸内（海岸清掃）の参加者数を増やしたいというところで、Bの継続、こちらのようになっています。先ほど、中高生のアンケート結果などでも、海ごみに対する意識も高かったりということもございましたので、この内容も見直しつつ、継続していけるといいのではないかなというふうに考えております。その他につきましては、このような状況です。

そして、次ですが、環境目標3に対してです。

環境目標3は、「賢い選択による低炭素と地球にやさしい活動が実現しているまち」ということで、低炭素の部分になりますが、なかなかクリアできていないものも多いところですね。Cという評価が多い状況ではあります。その中で、ライトダウンキャンペーン期間中に市域で削減するCO₂の量というのを削減するよう頑張りましたよというところは、目標値に対して実績がクリアできていて、評価がSという最高ではあるんですが、効果的なキャンペーンであると考えられることから、継続というようになっているということですね。あるいは、その下、JR岡山駅の1日当たりの乗降客数、これについては低炭素型のまちづくりを進めようということに対して、指標として適切なかどうかというご意見もあったというふうに伺っているんですが、これも新規という形で、内容を少し見直した形で、新たに指標として設定しようということでございます。

続きまして、環境目標の4ですが、「安全な生活環境と循環型社会が実現しているまち」というものになりますが、こちらは、例えば上の2つですね。児島湖の水質（COD）、海域の水質（COD）については、評価Cの状況ではあるけれども、継続して取り組まなければいけないものだということで、こちらに挙がっています。あるいは、下のほうですね。東部・西部のリサイクルプラザの来場者数、これは評価C

にはなっていますが、少しずつ増えてきているところでもあり、迷惑施設と考えられがちなこういった場所の環境活動への有効活用といった面でも、重要な取組ではあると思いますので、着目しているところでございます。

以上、4つの環境目標についての説明をさせていただきまして、成果指標の状況と
いうのを次に示したものがこちらになります。

リーディングプロジェクトは3つ設けられていまして、実際リーディング1では評価Bということで、まちなかのホテルの生息地についてですが、これは次期計画でも継続でいきたいというふうに考えています。また、リーディング2では、岡山ESDプロジェクト参加団体によるワークショップの開催件数、これも評価Bで決して悪くはないですが、ぜひ継続したいという形で挙がっております。リーディング3、こちらでは「身近な生きものの里」認定地区数、こちらも目標値をクリアしております、Sの評価になっておりますが、何かまた少し改善を加えた形で継続していこうというふうに考えているところでございます。

簡単ではございますが、岡山市の環境の現状と課題ということで、現在整理いただいている状況をご報告させていただきました。

続きまして、今度の次期計画の基本事項の確認になりますが、こちらは先ほど小野様からご説明いただいた部分になりますので、説明は省略させていただきますが、市の計画の中でこのような位置づけにあるというところのご説明になります。

続きまして、計画の基本事項の計画の対象のところでございますが、少し整理をさせていただきますと考えています。

まず、現行計画では、上の表になりますけれども、対象分野が若干分かりにくい構造になっておりました。大きく環境活動というのがありまして、その下に協働、自然環境、快適環境、生活環境という区分が入り、さらに大区分で低炭素、循環型社会というふうになっておりました。これが現行計画の構成でございます。これを次期計画では次のような案で、少しシンプルにまとめてみてはいかがかというふうに考えてお

ります。

まず、大きく1番目で地球環境、そして2番目で循環型社会、3番目で自然環境、4番目で都市・生活環境、そして5番目、こちらで環境教育・協働ということで、人に対する対策ですね。そのような形で整理してみてもどうかというふうにこちらから提案をさせていただいております。後ほど、ぜひまたご審議いただければと考えております。

そして、施策体系の骨子案ということでございますが、大きくは次のような形になりまして、（仮称）第3次岡山市環境基本計画という名称の下で、対象区域は岡山市全域、計画期間は令和8年度から10か年ということで、令和17年度（2035年度）までとなります。計画の対象は、こちら先ほど小野様からご報告がありましたが、岡山市環境保全条例第7条、これは4月1日から岡山市環境基本条例に移行することですが、その第7条に規定する施策の策定等に係る指針を基本として設定いたします。

このような基本に立ちまして、施策体系の骨子案というものを、まず頭出しさせていただいたものがこちらの表になります。こちらの拡大したものは、参考資料の3のほうにございますので、少し見にくいかもしれませんが、そちらをご確認いただければと思います。

全体の体系の構造ですが、これは先ほど小野様のほうからご説明いただいた、昨年度の環境総合審議会の中で示された体系に基づいております。一番最初に、環境像を描きまして、それぞれそこに対象分野が来て、それに対する環境目標を設定しまして、その下にひもづく基本目標というのを決めていく、このような形になり、それぞれを横断的にリーディングプロジェクトというのを設けるというような全体構造になっております。先ほど、再整理させていただいたという対象分野というのが、左から2つ目の列の部分に入っております、1番から5番のこの部分になります。その5つの対象分野に対して、環境目標をそれぞれ次のように設定し、そこにひもづくもの

としては、一番右側の基本目標の部分のそれぞれが来るというふうなところでございます。

長くなるかもしれないんですが、簡単に読み上げさせていただきますと、まず1番、地球環境につきましては、環境目標は「徹底した気候変動対策により、2050ゼロカーボンシティにつながる脱炭素社会が進んでいるまち」、基本目標は2つございまして、気候変動対策の推進によるカーボンニュートラルの実現、そして新技術や制度の積極的な導入による環境負荷の低減、この2つを挙げております。

2つ目、循環型社会、こちらの環境目標は「限りある資源を有効活用し、消費の最小化による廃棄物抑制により、循環経済を実現しているまち」、そして基本目標は3点ございます。サーキュラーエコノミーの実現に向けた取組の推進、廃棄物の適正な処理とリサイクルの推進、地域資源の循環促進（木材等を想定）。

そして、3つ目、対象分野自然環境について、環境目標は「自然と共生する豊かで魅力ある暮らしが営まれ、誰もが普通に保全の取組を行っているまち」で、これに対する基本目標は6つ設定する予定です。水辺環境の保全を推進する、在来種や希少種を保全し増やす、森林、草地、耕作地の保全を推進する、在来種や希少種を保全し増やす、生物多様性の回復・創出が必要な場所を把握し、健全な生態系を保全する、そして外来種の適正管理と普及啓発を推進するでございまして。

そして、4点目、対象分野は都市・生活環境になりますが、こちらの環境目標が「水・大気・土壌などの基盤環境が清浄で安定し、高い生活の質が維持できているまち」、それにひもづく基本目標が3点ございます。水と緑のうるおいのあるまちづくり、安全で快適な生活環境を維持したまちづくり、伝統的な町並み景観の保全に寄与した美しいまちづくり。

そして、最後、環境教育・協働の部分ですが、環境目標は「社会参加やパートナーシップ（協働）によりイノベーティブ（斬新）な動きが生み出され、環境課題の解決が図られているまち」。このイノベーティブという言葉は、もう少し身近な言葉にし

たいというところもあるのですが、まだ検討し切れておらず、そのまま出させていた
だいております。そして、そこにひもづく基本目標ですが、3点ございます。環境と
関わる機会の創出、市民とともに考える環境に配慮した暮らし、多様な仕組みや制度
が支える豊かな暮らしという形になっております。

まずは、大きな枠組みとしてこのような形で進めさせていただき、具体的な施策に
つきましては次年度以降に検討し、皆様にご審議いただければと考えているところで
ございます。

こちらの次年度のスケジュールにつきましては、先ほど小野様からご説明があった
とおりでございますが、今年度は1回の審議会で行いましたが、来年度は策定まで
持っていくということで、3回実施させていただくというところが大きなところかと
思います。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

長くなりましたが、すみません、私のほうの説明は以上とさせていただきます。

○藤原会長 ありがとうございます。

それでは、ただいまのご説明について、ご質問、ご意見がありましたら発言願いま
す。

氏原委員、お願いします。

○氏原委員 説明が多くて、頭の中で整理できていない部分もあるんですが、気にな
ったというか、全体の話として気になった点をまず言わせていただきます。

最後のほうに説明いただきました、対象分野の整理とか、それに基づく環境目標、
基本目標の話が出てきていたと思うんですけど、最初小野さんの話では、バックキャ
ストで行くという図がパワーポイントで出ていたと思うんですけど、次期計画の環境
像を明確にして、そこから逆算して計画を立てる。それで、今回の資料を見たら、環
境像が何もなく、対象分野が再整理されていて、それで環境目標ができていて、そ
れで基本目標も考えていて、何かこれは説明かな、何だろうな、そのあたりが混乱を
しているので、どういう整理の下に進められているのか、そのあたりをまず教えてい

ただいてもいいですか。

○事務局（小野） 岡山市小野です。

すみません、少しそこら辺の説明が抜けておりました。失礼いたしました。

まず、今氏原委員からご指摘いただきました、恐らく、先ほど地域環境計画さんからご説明いただいた施策体系の骨子案の環境像のところがないということなんですけれども、すみません、こちらについては実は来年度、岡山市のいろいろな計画が改定の時期に当たっておりまして、その中で、最初に私のほうでも説明させていただきました、市の最上位計画の総合計画の改定のタイミングでもありまして、今現状では、どうしても環境基本計画と総合計画との整合を取る必要性がありまして、まだ総合計画自体は来年度から本格的に進むというところでして、具体的にどうなるかがまだはっきりと見えていない状態なので、そこは担当課と話を進めていけたらと思います。なので、本来は総合計画の中の環境分野の目標に合わせて環境像を設定する必要性がありまして、ここを今空欄にさせていただいております。そして、今現状の整理としましては、現行の総合計画に沿った形で対象分野とか、そのあたりを整理させていただいているところです。なので、今後の進め方としまして、次年度各計画、総合計画との整合を図りつつ、今後審議いただくものとしては、今設定しております環境目標に沿った取組、施策、このあたりをご審議いただければと考えております。

以上です。

○氏原委員 総合計画のスケジュールはどうなっているのでしょうか。

○事務局（小野） すみません、具体的にまでは把握はしていないんですけれども、恐らく来年度1年でやりますので、年末前までにたしかパブリックコメントとか、そういったスケジュールが組まれていますので、それより前には話が出てくるかなと思います。

○氏原委員 総合計画と整合性を取るというのは基本中の基本なので、とても大切なことだと思うんですけど、一方で総合計画の進捗を見ながら環境像という一番の環境

基本計画のビジョンとなるものが決めれないというのは、一方でそれもなかなか問題だと思うので、総合計画は総合計画として進めるんだろと思うんですけど、環境基本計画においても環境像はある程度こちらで決めた上で、こういう方向で進めていきましょうというような下で対象分野を再整理し、例えば教育というのは多分これまで対象分野としてなかったらと思うんですけど、教育とか協働ですかね。整理できていないんですが、目標とすべきものがないのに、どんどん下の部分だけ再整理されていくというのは、計画を考える上での基本中の基本が抜けている感じもするので、そこはこの審議会の中でも環境像をこうしていくんだという議論もしながら、総合計画をにらまないといけないうんですけど、そういう進め方をしたほうが、バックキャストって言っているんですし、いいんじゃないかと思うんですが、そのあたりはどうでしょうか。

○藤原会長　ありがとうございます。氏原委員の意見はごもっともなところだと思います。将来、どういう未来があるのかという、そのイメージがないままに次期の計画の環境像をつくってしまおうという話なんですよ。それで、環境の問題、環境というのはクリエイティブな側面よりも、こういう部分に問題が起こるから、それに対して対策をしまおうという部分が多いので、例えば人口が減っていくとか、新しい産業ができて環境が悪くなるとか、そういう具体的なイメージが湧かないと、今からバックキャストで何をしようかという具体的な計画が立てられないんじゃないかと。氏原先生はそういうふうにおっしゃっていると思うんですけど。こちらに書かれた計画の進め方と、それから先ほど説明にあった具体的な方針との間の整合性というものをもっと少し工夫できないかなというふうに思います。

どうぞ、氏原先生。

○氏原委員　すみません、長くなって。藤原先生がおっしゃっていただいたことをまさにそう思っていて、既に議論されていたかもしれないですけど、審議会の中で第2次環境基本計画に、どこに問題があって、それを3次でどう直さないといけないうかと

いう議論も十分できていないと思っているんですね。その段階で、資料としてはかなり先を進んでいて、終了とか継続とかあったりして。そこも、どういうポリシーでそれが決まっていたのかも、もしかしたら既に説明があつて、皆さんご存じかもしれませんが、そこも分からないので、一番最初の始まりが分からない状態で、かなりゴールに近づいているみたいな、そんなイメージを持ったので、もうちょっと説明いただきながら進めていったほうがいいんじゃないかなというふうに思っています。

○藤原会長 ありがとうございます。

ほかに同じようなご意見の方はいらっしゃいますか。

はい、では原さん、お願いします。

○原委員 氏原先生が言われたんですけど、もうちょっと素人っぽい視点で言うと、条例のときも言ったんですけど、このすごい転換期に危機感が感じられない計画だなという感じがすごくして、何年も前と同じようなニュアンスで書かれているというように感じました。実際、温暖化は物すごいスピードで進んでいてやばいのに、そういうことが淡々としか書いていないし、今物すごく物価高でみんな市民は困っていて、みんな自給しなきゃいけないんじゃないかと私なんかは思うんですけど、そういう戦争がすごく起きていて、日本国だっていつどういう目に遭うか分からないようなところで、自然環境ってよそごとじゃなくて、自分の食べ物とか水とかが危ないよというふうに日々市民は感じていると思うんですけど、そこと直結している問題なので、環境の問題は。農業のこととか、それから水、P F A Sのこととか、それからエネルギー、車で行くとか電気を使うとかみたいなことが全部、電気代が上がるとかガス代が上がるとか、そういうことと直結していることだよということが感じられない、よそごと、人ごとみたいな環境計画だなというふうに私は感じられると思うんですね、普通の人の感じはね。なので、そこを、今本当にやばいよというふうなところを感じられるような立てつけみたいなこともしてもらったほうがいいんじゃないかなというふうに思うんですが。

○藤原会長 ありがとうございます。このやり方というのが、アンケート調査をして、過去の部局がどういう対策をしているかというのを一覧で示して、これまでどおりこういうやり方で進めますねという、何かこれまでやってきたことをそのまま繰り返すような、そういう計画づくりということなんですけど、果たしてそれがいいのかどうかというご意見だったように思います。特に、現在市民が感じている問題と直結というか、リンクしていないということで、本当に何が問題になるのかというところを突き詰めてないということがまずありますよね。バックキャストというか、未来を予測するという、未来の議論をするというところを本来ならばしていくべきで、それが総合計画の中でできるとは思えないんですよね。だから、こちらからいろいろな問題を出して、それがこのまま行くと、十分10年後にそれが成し遂げられているのかというところをまず考えなきゃいけないと。それが、まだまだ10年ではできないんだったら、そのところをもう少しスピードを上げて、あるいは加速していかなければいけないという、そういう問題に対して、今どうあるべきかというところをしっかりと関係づけをするというのがいい計画じゃないかと思うんですけど、いかがでしょうか。ほかの委員の方で何かご意見がありましたら、遠慮なくおっしゃってください。

いいですか。はい、赤井委員、お願いします。

○赤井委員 今藤原先生が言われたように、10年後にこうなってほしいというのを国も出しているというのを書いてあるので、総合計画のほうにインパクトを与えられるような環境分野からの提言という形でしていかないと、年末に出てくるのを、そこに合わせてみたいなのって、この1年間何をやってきたのかということになってしまうと思うんですけど、そしてアンケートを見たんですけど、原さんもされていると思うんですけど、2014年にE S Dの世界大会があって、その後この意識を地域全体に広げていこうというので、公民館とかでもたくさんの活動をしてきたし、私もやってきたし、その後2015年からS D G sの15年が始まって、目標を立ててやってきて、岡山市は先進地だというふうに何度も言われてきていたのに、高校生はまだ学校

で勉強しているのかもしれないんですけど、市民がまだごみの分別というところぐらいしかできていないというこのアンケート結果にがっかりしていて、私も30年ぐらい環境のことをやっているんですけど、この1つ前の計画が大半継続というふうになっているのを見て、本気かなと思ったんですよ。もう少し、イノベーティブなどと言われるんだったら、斬新な、それかみたいなものを提案していかないと駄目じゃないかなと思うんですよ。だから、E S D、S D G s、18%しか達成していない、あと5年しかないのというのを言われているんですけど、そうでしょうね、このアンケート結果を見るとというふうに思っています。だから、生ぬるい。生ぬるい議論をして、審議会をしました、これでいいですかというのを審議会の委員として出しましたというのが恥ずかしくて、前回の条例のときも恥ずかしかったんですけど、今回これで行って、そこに審議会委員という名前が載っているのが恥ずかしいんじゃないかなと思っています。じゃあ、どうせえと言われたら、すぐにはできないんですけど、皆さんの知恵を出して、もう少しがつんとした計画を立てていかなくちゃいけないんじゃないかなと思っています。ごめんなさい、しゃべりましたけど。

○藤原会長 ありがとうございます。

ほかに皆さん、どう思われていますでしょうか。ありますか。ご意見ありますか。よろしいですか。

もう一つ、じゃあ、私が気になった点で、S D G sの目標年が2030年ということだと、この計画の半分ぐらいしかたたないときに目標年が来てしまうということだと、それを目標にしますと書いていたら、おかしいんじゃないかと。それを超えるような何かというものを考えて、うちはこれをやりますというふうに言っていないと、S D G sを目標としていますというのを、今計画の中でそれを入れるということは、途中までしか考えていないという話になっちゃいますよね。だから、そのところ、もっと先にどうなるのか。多分、S D G sはまた新しい何かが出てくるとは思うんですけど、それをなかなか我々のほうで予測することは難しいんだけど、1つ2030年にこ

のSDGsの目標が岡山市は達成できそうかというところを評価ポイントにして、達成できないのであれば、もっともっとやりますというような言い方をするのが1つやり方としてあるかなと。だから、将来の目標は具体的には見つからないけど、まず2030年の目標で今現状がうまくそこに到達できるのかどうかということの評価して、それが遅れているようだったら、そこをもっと加速するとか、強弱をつけて計画を考えるというのはできるかなと思います。

いかがでしょうか。皆様の得意な分野というのがあると思うんですけど、例えば池本さんはたしか生物のことを専門にされていますけど、例えば岡山のそういう生物多様性の話とか、十分計画どおり進んでいるものなんでしょうか。ご意見いただけたらと思います。

○池本委員 昨日も市の自然環境保全審議委員会のほうの会議がありまして、新しい計画等を見させていただいて、お話をさせていただきました。ここで先ほど原先生とかが言われたように、イノベーティブなことはあまりない印象を受けております。実際、岡山市内でもいろいろな希少な生き物とか、そういったものはいるんですけども、実際それを具体的に守っていこうとか、そういったことをするにはいろいろ、実際にはなかなか難しい。これからどんどん進めていかなければならないんですけども、そういった勢いといいますか、なかなかこちらも提案できないところもあって、もどかしい思いをしております。その上位に来るこの環境計画ですか、環境基本計画につきましてもいろいろ、環境目標のところで思い切ったことをしていかないと、はっきり言って、今回も見させていただいて、次期計画の方針でも継続、継続、継続とか、新規のものを見させていただいても、どうなのかなということも少し思っているんですけども、そういったところは各専門の先生方からどんどん意見をいただいて、変えていったほうがいいのではないかなと思っています。それが実現可能性云々ということもあるでしょうけれども、ぜひそういったことを進めていっていただければと。私のほうでももちろん、自然関係につきましては提言させていただきたいと思

っております。

○藤原会長 ありがとうございます。

皆さんもご意見がたくさんあると思うんですけど、将来こういう環境の未来があるよというのは、なかなか言うのは難しいんですけど、我々は計画で対策を考えるわけで、じゃあ、どういうことができるのかということを考えたときに、岡山市の強みを生かす、これは赤井委員が言われたように、原委員もそうですけど、これまでE S DとかS D G sをかなり力を入れてやってきたということと、それと市民の参画というか、これは動かすときに市民が中心にというか、頑張って動かしてきたというのがあるわけで、だからもっといろいろな計画の中に市民参画という視点でそれぞれもっと強化するというような言い方はできると思うんですね。だから、新しいこういう課題がありますということを見つけるのは難しいけれど、今ある課題をもう少し発展させるために、もっと市民がそこに参加していきますという、そういう視点で見れば、もっともっとそれぞれの計画を広げるというか、深めることができるかなと思うんですけど、いかがですかね。そうするとやりやすいかなと。我々にとって考えやすいかなというふうに思うんですけど、いかがですかね。

杉山委員さん、いかがですか。こちらから当てさせていただいておりますが、今日は忌憚のないご意見をいただいて。というのは、今日考えておかないと、この先このままずっと行ってしまうと、何か不満、皆さん、分かりませんが、これまでどおりのものでできてしまうという、そういうことがあるので、今日の議論が結構大事な出発点かなというふうに思います。

杉山委員、お願いします。

○杉山委員 私は、水の分析をしているので、水環境に関しては児島湖の調査とかも5年ぐらいやっているんですけど、この環境汚染対策とかというのを考えたときに、頑張ればまだまだ改善できる、物すごく成果が出るであろう分野と、水対策のような、今の技術でできるところまでやって、これ以上難しいという分野があると思いま

す。ちなみに、児島湖の水を5年ぐらい測っていきまして、難分解性有機物がCODが下がらない原因だということで、どこにどれぐらいあるかというのを川も含めて調査しているんですけど、浄化センターの放流水が児島湖に出てきますよね。あの水自体が、5ミリグラム・パー・リットルぐらいあるんですよ。それに含まれる難分解性有機物というのがほぼ児島湖にいつでもある濃度と同じなので、今の下水処理場の技術というのが三、四十年前ですかね、きっとね、そのときの最新のもので物すごく頑張って修理されているので、これ以上の浄化ができるかといったら、難しそうだと思うんですね。ですから、私は今のままどんなに頑張っても、児島湖でCOD 5ミリグラム・パー・リットルというのは達成できないんじゃないかと。何億円つぎ込もうが難しいんじゃないかと、この技術のままだったらですけど。そんな気がしていて、それでもずっと継続しないと仕方ありませんとさっきおっしゃった。そういうふうな種類の問題と、現行計画でも活動にすごく重点を置かれていますけど、人を教育するという分野というのは、まだどんどんやっていける余地が多い分野だと思うんですね。ですので、人間を中心にした環境を考えたときに、教育とか、そういう皆さんに啓蒙するとか、そういうのを諦めずにどんどんやっていくようなエッセンスを盛り込んでいくというのが大事なことじゃないかなと思うとともに、水環境はすごく閉塞感を感じるというか、今やれることをやっておられます。多分、田んぼからの水も相当な有機物を児島湖に供給してくるんですけど、それも調べたんですけど、それも相当対策した後のことなので、これ以上減らせと言われたら、農業の人が困っちゃいますよね。そういう分野もあるので、何もかもじゃなくて、やったら成果がぐっと上がるというような分野をピックアップして、しっかり重点的にやるというのも大事な事かなと思います。

○藤原会長　ありがとうございました。継続の見直しというお話だったと思うんですけど、やれることとやれないことということをきっちりと仕分をするというか、これを一生懸命やるよりは、こちらをやったほうが良いという、そういうそれぞれ個々に

ついてもう一回やるべきかどうかということを吟味しなさいよという、そういうご意見でよろしいですかね。ありがとうございます。

片岡委員、お願いします。

○片岡委員 私は建築の分野なので、今杉山委員さんがおっしゃったのと近い部分で、自然環境の問題と安全に暮らせるという問題が、それも環境と捉えられているので、今同じ土俵にあると思うんですけど、それが市民からすると分かりづらいというか。だから、アンケートでいくと、自分の暮らしに近い、例えば歩道を整備してほしいとかはすごく回答率が高かったり、ポイントが高かったりしていると思うんですけど、そういうものと自然環境とかで待ったなしの部分というのが同じように載っているところが、何か取り組みづらい部分もあるというか、いろいろなものがごっちゃになって見えてしまう。優先順位が高いもの、先ほどおっしゃったように、市民が頑張ることができるもの、頑張ってもこれ以上できないものみたいなものを、もう少し分かりやすく分けていくべきじゃないかなと思いました。

というのともう一点は、例えば最後に出していただいた案についても、建築の分野で言うのであれば、建築、都市の分野でいくとなると、これは何かひな形みたいなのがあって書かれているんですかね。岡山市のことで書かれているのかなとちょっと不思議だったんですけど、4番の、4－3ですかね、伝統的な町並み景観の保全に寄与した美しいまちづくりという文章があるんですけど、岡山市の中で伝統的な町並みの保全というのはすごく少ないんですね。それよりも、もっと多分やるべきことがあったりするんじゃないかなと思っていて、本当にこれは岡山市のことで書かれている、もしくはこういうひな形を入れなきゃいけないということなのか、分からないんですけど、もうちょっと必要なことがあるんじゃないかなと思いましたし、すみません、専門が建築なので建築分野で言わせていただくと、今年の4月から省エネ法という法律もできまして、住宅の省エネ強化が、全国的により強化が始まるんですけども、例えば他県ではそれよりももっと行政単位で条例をつくったりして、より高い性能を求

めたり、それに補助をしたりとか、そういう動きももちろんありますし、例えばお隣の鳥取県であれば、県産材を使うことで、それを補助するとか、そういうこともやっている県はたくさんあるんですけど、そういうものについては一切触れられていないというところも気になりました。なので、継続を見直すということと、岡山市としてできること、やるべきことというのを優先順位というか、つけたほうがいいのかなというふうに思いました。

以上です。

○藤原会長 ありがとうございます。今お聞きしていて、岡山市の環境の現状と課題というスライドですよ。これでいろいろ項目が挙がっていて、それから次期計画の方針、継続ということ、継続、あと終了とこの2つしかないですかね。これというのは、事務局案としてつくられたものなんですか、今回。

○事務局（小野） すみません。少しこちらについて説明の補足をさせていただければと思うんですけども、方針として次の計画にこれを絶対に継続して入れるというわけではなく、担当課に照会をかけたときに、この成果指標が継続して使えるかどうかというところ、まず。それで、それについて継続できますよというところは継続としまして、できない部分については終了といった形で書いております。なので、今後計画の策定に当たって、強弱をつけるであるとかというところをこの中で選ぶなり、また新しい指標を、関係課との相談とかにはなるとは思いますけれども、新しい計画にそういうものを盛り込んでいって、つくっていくようになるような進め方にはなると思います。

○藤原会長 それは、こちらのほうで意見を言えば、交渉してくださるんですか。というか、この会議、総合審議会というのは、いろいろなところから環境に関係するいろいろな活動をやられて、その結果こうでありますよという報告を受けて、それをずらっと並べて、岡山市はよくやっていますねとか、ここは駄目ですねという、そういう評価をするという、そういうのがもともとのこの審議会の役割のような感じがして

います。それだと、我々は結果を聞いて、それで、ああ、よかったですねというふう
に、そういう話をするだけに終わっちゃうので、それではこの総合審議会の役割はあ
まり意味がないんじゃないかということで、ぜひともこちらのほうで、これは続ける
べき、こっちは続けられないというような、そういう意見を集約して、それを各部局の
ほうに言っていただくと。それで、もちろんその部局の考えもあるので、そこは調整
しないといかんですけれど、まずこちらから発信するというほうが私はいいと思いま
す。そうしないと、ここの役割って何にもないじゃないですかということになると思
うですよ。ただ、そのためにはそれぞれきちっと見ていただかなければいけな
い、皆さんに。各専門家の方々に見ていただいて、ご意見をいただくということが必
要になってきます。それは覚悟しなきゃいけないんですけど。それを私としてはぜひ
やりたい、やっていただきたいというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。
皆さんのご専門で、そのご専門でチェックしたからといって、それが通るかどうかは
分かりませんが、専門家の意見としてお聞きしたいということですね。いかがです
か。

原委員、お願いします。

○原委員 私もここに来させてもらうからには、意見をちゃんと言って帰りたいと思
っているわけなんですけど、そんなことを言ったら、環境保全課の人たちが困るとい
うことも分かっている、元同僚なので言いたくないけど、でも外の人間になったんだ
からこそ言わせてもらうという気持ちで言っていて、心が痛みながら言っているん
ですよ。でも、私はE S Dの仕事を市役所で10年していたときに、先進地ということで
ブラジルの何とかという町で国際会議があったときに、感動したことがあって、それ
はその電波塔みたいなのところに、テレビ局の塔みたいなのところに上って見たら、町
がまるでブロッコリーサラダみたいだったんですよ。というのは、ブラジルだからか
もしれませんが、街路樹が巨大な街路樹で、もくもくもくと緑があって、それが道
という道にその巨大な街路樹があって、上から見たら本当にブロッコリーのサラダみ

たいに見えるんですよ。すごい感動して、町にはリサイクルのボックスがあって、ごみは生ごみとかも循環するような箱がちゃんとあってという、すごい環境に、人目でのこの町は環境の町だと分かるようになっていたんですね。それで、そういう市民に分かりやすい、駅を降りたら緑みたいな、仙台もそうだけど、例えばそういう、ここはそれをやっているぞと分かるような何か、全域は難しいかもしれないけど、全域はいんですよ、建部なんかは緑がいっぱいなんだから。この市のまちの駅の前に、今度どんな電車が来るのか知らないんですけど、無機的な電車の停留所があるとかじゃなくて、岡山って自然と水と緑の豊かなまちなんだから、それを表すような、西川もそうですけど、そんなものとか。それで、岡山に帰ってきてがっかりしたのは、街路樹がちょんちょんに切られていて、全然葉っぱがなかった。今もそうですけど。いろいろ理由はあると思うんですけど、いろいろなところを調整した結果、そうなっちゃうんだとは思うんですけど、温暖化しているんだから、街路樹、緑にしようよみたいな意見を醸成していくように、マスコミの人と協力して流してもらうとか、あらゆる方法を使って、環境保全課だけではできないんですけど、外圧も使って、私は外の人と交流するって大事だと思うんですよ。そういうこと、私も行かせてもらって見たから、そういう強烈な経験を持っているからここって言えるけど、ほかを知らなかったら、こんなものかなというふうに思ってしまうけど、外国じゃなくたって、日本の国内だって、どうなってんのかとか、どうしたらできるんだみたいなことを市民が勉強するスタディーツアーとか、いろいろな方法で、どうやったら一緒によりよいまちが作れるのかというのを、外の人とも話し合う場を設けてやっていくみたいな、ちょっと夢物語を言っているんですけどね。でも、言わないと、これはそういうことを言う場所だと思うので言っています。今ある続きをやるという、そんなことをやっている場合じゃないと思うので、バックキャストिंगは素晴らしいと思います。そこに至るために、飛んで、イノベーティブなことをみんなで出し合ってやっていけたらいいなと本当に思っているんです。

○藤原会長　ありがとうございます。ご経験から、これまでにない、それぞれの意見を反映させたものにしていきましょうと。それぞれ持っている知識も経験も違いますから、そういうものを出して、計画をつくり替えていくという作業をぜひしてほしいなど。具体的に私が思うイメージは、こういう項目があつて、これはやるべきか、やらないべきか、あるいは自分はこう思うというようなことを書けるものだけ書くと。それぞれ専門が違いますから、分からないところは何も書く必要はございません。ただ、自分の知っているところはこういうふうにしたほうがいいんじゃないかという意見をそれぞれ書いて、それを集約してもらって、それを計画の中に反映してもらおうというのが一番いいんじゃないかと思います。そうすると、我々もこの委員会でちゃんと仕事をしたんだということを示すことにもなりますし、全く話を聞いていてうなづくだけというのは、この会議はしないほうがいいのかと思います。

私が勝手に決めておりますが、事務局のほう、それでいいですか。何をするかというと、この項目ごとに記入欄をつくってもらって、それを委員の方々に配付してもらい、メールでもいいです。そこに意見を書き込んでもらって、それを事務局のほうで集約すると。その結果で、継続が変わらないんだったら別に交渉していただく必要はありませんが、大きく変わるようなケースとか、新しく何かするといケースについてはそれぞれ交渉していただいて、審議会ではこういう意見が出たので、次期計画においてはそこのところを考慮して検討してくださいと言っていただいたらいいわけですよ。今だから言えるかもしれませんが。まだどこも同じように足並みをそろえて作り出すんだったら、今のタイミングで言わないと、それぞれが今までどおりやってしまったら、この会議で動かせないことになりますから、ぜひそこは一肌脱いで、事務局のほうでやっていただきたいということですが、いかがでしょうか。

○事務局（小野）　すみません、藤原会長、一応確認なんですけれども、今のこの資料に何か枠をつくって、ご意見をいただくような形で、それを事務局で集約するということですか。

○藤原会長 ええ。一番シンプルにしましょう。

○事務局（小野） そういうことですね。

○藤原会長 ええ。たくさんあるんですけど、全部に答える必要はないので、自分の専門に関係するところがあれば、そこに記入してもらおうと。そういうので。

はい、どうぞ。

○氏原委員 すみません、途中割って入るようで。この議論に直接関係することなので。

会長のおっしゃっていること自体はやるべきだと思うんですけど、今回書いている次期計画の方針の継続とか終了って、これってあくまでも指標のものだけを言っているんで、政策じゃないと思うんですよ。なので、実際にこれを指標に基づいて判断すると、指標をどうするかみたいな感じになっちゃうので、それをやるのであれば、政策とひもづけてどうするかというのを各委員さんから聞くものにしないと、多分本質にならないと思うので。

○藤原会長 政策というのは、具体的な……。

○氏原委員 つまり、これ、環境目標の次期計画の方針継続って、これは単なる指標を継続するかというだけの話だと思います。それで、ただこれは指標の話であって政策じゃないので、ここで議論するのは政策だと思うんですよ。ですよ。なので、その議論をするのであれば、環境基本計画に記載されている政策に対して継続なのか……。

○藤原会長 多分、あれだと思いますよ。

○氏原委員 いや、これは指標ですから。この指標をどうするかというのは、個別にどうかというのは何か違いそうだなと思ってて。なので、どこのレイヤーで評価するかだと思うんですけど、少なくとも今回のこの資料は指標に対応しているので、指標をどうのこうの言っても、本質がないような気がするなと思ったんです。

○藤原会長 そうですね、指標。

ご意見ありがとうございます。

○赤井委員 これから指標をつくるということですか。

○藤原会長 必要ならば新しい指標を設けて、それに対応しなきゃいけませんし、今まである指標で、これは必要ないんじゃないかというものは廃止してしまうという、そんな改廃ですよ。

○氏原委員 バックキャストでいうと、指標って最後の最後だったと思いますので、だから評価のところなので。だから、個別のことを聞くというよりか、もっとレイヤーが高いところの環境目標とか基本目標のところ、環境像は出ていないですけど、ところでそれぞれ意見を伺うというのがいいのかなと、今率直に思ったんですけど。どこのレイヤーの答えられるかなって。

○藤原会長 そのほうが答えやすいかもしれませんね、皆さんのこういうものが必要だという。

○赤井委員 基本的には、ここに出ている対象分野と、34ページに載っている対象分野は仕分を変えましたよね。環境目標も出ていて、その後に基本目標というのを決めて、これでどうでしょうかという話だと思うんですけど、取りあえずこれがいいかどうかというのは話をしたほうがいいんじゃないのか。もっと地球環境のところ、2つしかないですけど、めっちゃ地球環境が今悪いので、この2つだけでいいのかとか、そういう、もう少しこういうのがあったほうがいいんじゃないのかとかということ、これを議論したほうがいいんじゃないかとちょっと思ったんですけど。

○藤原会長 骨子案のこの環境目標ですか。

○赤井委員 さっき説明して、整理して、位置づけを変えた、それでこの形にしようという案ですから、それでまず……。

○藤原会長 参考資料3ですね。

○赤井委員 最後のところですね。

○根岸 1点よろしいでしょうか。すみません、説明が多分不十分で申し訳ないで

す。

今ちょうどご助言いただいたとおりでして、各委員の先生方からご助言をいただいたとおりでして、まず指標についてはあくまで報告をさせていただいた形でございます。ですので、次期計画では当然この一番右側の列には新規というののもきっと入ってきますし、今各部局様のほうで継続としているけど、それに対してどうかというのはもちろんこれからご審議いただいて、一緒に考えていく部分でございます。かつ、今氏原原先生のほうからご意見をいただいたとおり、本日もご審議いただきたいなというところは、パワーポイントですと32ページに挙げた、枠組みを少し変えましたが、いかがでしょうという部分。というのはご審議いただければと思いました。また、バックキャスティングではあるんですが、環境像が出ていないからおかしいんじゃないかというところは、確かにそのとおりではあると思うんですが、総合計画のほうの進捗もにらんでというところもございましたので、例えばご意見をいただいておりますということはできるのかなというのが1点あります。それで、それを踏まえた上でも、環境像がどう来ても、この枠組みはひとまずこれでいいんじゃないかとか、やっぱりおかしいんじゃないかというようなご意見は少しいただけるかなと思ひまして、ごめんなさい、これじゃなくて32ページの。これですね。この下の枠組みで考えていっていいかというところは、今回の資料の中でもご審議いただけるかなとは思っております。ですので、指標にだけとらわれずにいただければなというところなんです。ですが、会長のおっしゃるとおり、ぜひ委員のご意見というのは、今後この、先ほどのこの後に右側にどんどん施策がひもづいてきますので、それは次年度ぜひ具体的に話していかせていただきたいので、そこに結びつくご意見というのは、藤原会長がおっしゃられたように、いただけるとありがたいというところで、また指標についてもご意見をいただければありがたいんですが、指標が全てではないというところだけ補足させていただきます。すみません、説明が不十分で。

○藤原会長 参考資料3の環境目標、それから基本目標とありますが、この環境目標

も議論の対象になりますか。まず、順番でいくと、基本事項として計画の対象を、構成を組み直したという話ですね。これまで環境活動として4つの分類があつて、低炭素、循環型社会という構成になっていたのを、パラレルに1から5番までに直しました。それで、5番目には環境教育とか協働というのが入っていますよと。ということで、これは大きく変わった点というのは、対象分野の構成を変えたということですか。項目も若干変わっているんですかね。環境項目。

○根岸 はい。大きくそういうことでございます。国のほうの第6次の環境基本計画で目標としているような枠組みにもそろえた形にしたということでございます。そこに、もっと岡山市らしさを出そうというご意見があれば、それでも構いませんし、それも含めてご検討いただければというところでございます。

○藤原会長 議論を滑らかにするために、つくっていただいた資料に基づいて順番に検討していきたいんですけど、まず最初はこの部分ですね。構成の部分を変えましたということで、1番から5番まで。これについて、何かご意見とかがありましたらお願いいたします。私が思うのは、協働というところが環境教育・協働ということで、一つの大きな対象分野になってきて、5番というのは1番から4番までとも関連が深いと。全部に関係するようなことだと思っていて、特に岡山市は環境教育・協働というところでしっかりと主張するような計画になればいいなというふうに思っています。

はい、どうぞ、氏原先生。

○氏原委員 今日ご紹介いただいたアンケート調査で一番思ったのは、市民の方々、地球温暖化の問題とか環境問題、きちんと考えないといけないなと思っているけど、実際に行動に移していないというところだったと思うんですね。それで、多分、私は交通分野をしているので、渋滞緩和をするために、人々に自動車ではなくて公共交通とか徒歩とか自転車を使ってもらいましょうみたいなことをやって、行動変容をしてもらうということをやっているんですよ。それで、大体特定のイベントを対象にした

ら、1割ぐらいの方が変わってくれたりもするんですけど、そういう背中を押すとか、きっかけをつくってあげて行動変容につなげてあげるような取組も、岡山市として積極的に進めていくべきかなというふうに思っています。多分、ここの対象分野の構成を変える、環境教育とか協働が出てきているというのは、岡山市自体がそういう土壌がかなり常にきちんとあるというところで、ただ、それがまだ一部の人間の方々の中にとどまっているという問題があると思うんですよね。なので、そこをもっと市全域で広げて、市民の方々の背中を押して行動変容を促すような取組もやっていきますというのも、大きな目標の一つとして掲げていく必要があるんじゃないかなというふうに思いました。

○藤原会長　ありがとうございます。都市計画的なものも同じような形で、この啓発とか協働とかというのは分けてというか、それを一つの大きな目玉として置くようなつもりはあるんですよね。

○氏原委員　そうですね。総合計画とかでもそうですし、都市計画とかでもそうですし、交通計画でもそうですけど、ここで言う次期の計画案のように、1、2、3、4という軸があって、それを支えるものとして5をつくるというのは、よくある全体の構成かなというふうに思います。

○藤原会長　分かりました。ありがとうございます。今のご発言の中で、キャンペーンとか、それから市民に対して行動変容を仕掛けるというような話は、例えば啓発という言葉で代表できるかなと思って、環境教育、それから啓発とか協働、何か啓発という言葉がこの中に1つ入れといたらどうかなというふうに思いました。今言っていた1つ、そういう人を動かすための努力というのを入れておくというのが確かにいいと思います。言葉として専門家の方がいらっしゃいますから、もっといい言葉があるかなとも思っておりますが。

○氏原委員　すみません。僕がイベントという言葉を使っちゃったので、キャンペーンみたいになっちゃったんですけど、そうじゃなくて、継続的に行動変容するための

取組をすることによって、習慣づけるというのが最終的な目的です。それで、交通手段の選択でいうと、岡山県民の方々は最初から自動車を選択しているんですね。だから、公共交通とか、特に電車は考えていない。その中で、こちらから公共交通とか徒歩とか自転車を考えるきっかけを与えるということによって、こういう選択肢もあったんだということで行動変容し、それが持続的につながっていくので、そういう一過性のものではなくて、それを根づかせていくためにはどうすればいいかと考えるような取組を、これから政策について具体的に考えるのであれば、やっていかないといけない。それで、交通分野ではモビリティ・マネジメントといって確立された手法としてあるので、それがもし環境分野であるのであれば、そういう手法を提供してやっていくべきじゃないかなというふうに思います。

○藤原会長　ありがとうございます。廃棄物行政なんかは、みんなにやってもらうということを前提としているので、常にいろいろな市民に対する啓発をして、それを実際にやってもらっているということで、基本になっていると思うんですね。環境マネジメントという言葉、環境管理とか環境マネジメントとかという言葉を入れますか。今のご意見で、モビリティ・マネジメントというのが都市のほうで使われているのであれば、そういう言葉を入れてもいい……。

○氏原委員　雑談ですけど、交通手段による行動変容を促す方法として、基本的なものとしては、環境に訴える、CO₂を出していますよと。健康に訴える、あとは経済面に訴えると、基本的に3つあるんですけど、環境が一番効果がないんですよ。健康面とか経済面は、その方そのものに影響するので行動変容につながりやすいんですけど、やはり環境というと行動変容につながりにくいという面があるので、そこら辺もうまく、どうやったら行動変容できるかということも考えながら、市民全体で取り組める方法をつくっていくというのも1ついいんじゃないかなというふうに思います。

○藤原会長　すみません、今のお話についてもう少し深めたいんですけど、環境によくないですよというふうにモビリティのほうで言っているのは、まさにこの環境

活動の一部としても見れるわけですね。

○氏原委員 見れます。

○藤原会長 だから、広い意味でいろいろなところに環境要素があるので、そういうところを、環境を意識して行動を変えてもらおうというところですね。それがここの部分に入ってくるので、キャンペーンだけじゃなくて、いろいろなところでその環境というものを意識してもらおうという、そういうアクティビティーのことだと思うんですけど、どういう言葉を使えばいいのか、よく分かりませんが。意識改革みたいなものを積極的にやりましょうということですね。

○氏原委員 100%変えることはできないですけど、人口の100%を変えることはできないですけど、数%だったら変えられる可能性があって、数%変わるって、めちゃくちゃ大きいですから、地球にとっては。だから、不可能じゃないと思うんですね。なので、積極的に考えていきませんかという提案です。

○藤原会長 どうもありがとうございます。ぜひ、そういうものもここの中に入れていくということでよろしいですかね。

いかがですか。何かご意見ありますか。

○黒住委員 私ですか。

○藤原会長 はい。

○黒住委員 今の公共交通とかになると、結局市民の方が利用するわけですね。それで、実際自分が公共交通を使うとなると、便利かどうか、お金というよりも。ということになるんですね。市内の循環とかはまだ結構いろいろな会社も含めて行っているんだけど、市外となるとなかなかそういうわけにもいかないんで、そのあたりがどうなのか。あとは、もう一つはさっき言われたような、環境に意識のある方は、多分不便でもちょっと回って、あと健康、歩けばいいか、そこまで行って乗ろうかという気にはなるんだろうと思うんですが、私もNPOとかでいろいろ環境活動をやっていました。まだ全然こういうふうになんか言われる前から、1%でも変わればいいのか

なということでやっていましたが、まだ全然伸びていない、赤井さんが言われたように、本当に情けないなという。ただ、環境教育に関しては、私たちNPOも一応小学校とか中学校とか、いろいろなところでやっていたので、そういうかいがあつて、環境教育で小学校、中学校の方の意識は高いのかなという気はあります。でも、あこの基本計画とかを見させていただいて、誰に対してこの基本計画を出すのか。多分、中学校とか高校とか一般の人がこれを見ても、さっと目を通したら、そこに置いとく、そんな感じがするんですね。だから、誰に対して出すもの、一般の人が見て、これはこうやれば環境にいいんだとか、そういうのが具体的に分かるようなものだと、すごいいいのかなというふうに思っています。だから、誰を対象にして出すかによって、そういう、例えば子供に出すのなら、童話とかみたいな感じになるし、そういうものであれば大人もあるし、お母さんとかは読み聞かせもできるしみたいなの、そういうふうに誰に対して出していくものかによって、内容も変わるのかなと。今までどおりのそういう基本計画だと、多分市民の方に市政だよりと同じように配っても、多分ごみ箱に行くとか、その辺の本箱にぼんと置いとくとかで、全く伝わらないのかなと思います。小学校の環境教育とかに行って先生が当時言われたことは、皆さん、今日はいろいろ知ったと思います。この知ったことで、皆さんはそれで考えてください、考えたら、それを実行に移してください。そして、もう一つ大切なのは、それを誰かに伝えてください、それがこのあれなんじゃないかなと思うんです。だから、見たことによって知りました。それで、考える機会をつくれます。考えてあれしたら、じゃあ、実行しようかと、そういうふうに思える。それで、それがいいものだったら、岡山市はこんなをつくったんだよとほかのところに伝えれば、広がるのかなという。そんな基本計画のものができれば、僕はいいのかなと思いました。

○藤原会長　ありがとうございました。まず、つくるだけでは駄目で、それがどう伝わるかというところだと、聞いて思いました。どう伝えるかという、テクニックもありますけど。最初の基本計画の中に、これは、この目標は何ですというときに、市民

がどれぐらい意識を変えるかというか、みんながこういう環境というものを意識しながら行動するというのがこの計画の目的であるという、一番元のところにそういうものを入れるべきじゃないのかなというふうに思いました。氏原先生も、今黒住さんもおっしゃったように、数%変えるということが重要なポイントだとしたら、計画でつくるだけでは駄目で、それをどういうふうに市民に訴えるのか、それから訴えて、それを本当に意識してもらうのかという、そこは強く推し進めないと、絵に描いた餅になっちゃうと。そこをあえて本格的に何か政策を打つとか、そういうところが抜けているのかなと聞いていて思ったんですよ。そういう具体的にそういうことが、どういう戦略でやるかということまでは頭にはないんですけど、いろいろな市民ネットワークとか、それから学校とか職場とか、いろいろなところを総動員して、そういう変えていくという運動をしましょうと。目標のところではいろいろな部局が活動するんですよ、そこに共通の、まずは普及させましょう、意識を変えましょうというところを全てに入れてもらうとかね。そういう実地的な、実質的に環境を意識させるようなプログラムというものを考えて、それを投入していくというのを計画の中に入れていくというのはいいんじゃないかなと思うんですけどね。いかがでしょうかね。今までにないわけですから、その努力がないということを今ご指摘されたので、その部分は真摯に考えて、そういうことをやると。モビリティ・マネジメントってどれぐらいしっかりやられているのか、よく分からないですけど、具体的に何か手法とかがあるんですかね。

○氏原委員　だから、その環境、藤原先生のほうがお詳しいかなと思っていたので、環境分野における行動変容研究ってないのかな。交通分野だと、相当に蓄積があって、いろいろやられていて、それで僕もファジアーノの試合観戦者を対象にやっているんですけど、1割ぐらい変わりますので、自動車利用者の。だから、それなりに効果はあるんですよ。だから、その環境版の行動変容施策みたいなのがもしあれば、いろいろな事例があれば、それを参考にするというのは1つあるかもしれないで

す。

○藤原会長 それは、行政がそういうことをやられているんですか。

○氏原委員 行政がやっているところ、交通分野でいうと、行政がやっているところが多いです。ファジアーノに関しては、僕が自主的にやっているだけです。

○藤原会長 そういう行政の中でもいろいろな部局があって、そういう普及啓発のところをやられているところもあるので、参考にするというのもいいと思いますし。

○氏原委員 ファジウオーカープロジェクトというのをやっていまして、知っている方がもしかしたらいるかもしれないですけど、やっていて、それなりに行動変容しているんです。コロナをきっかけで、対面でコミュニケーションしながら行動変容につなげていくので、コロナのときにできなくて、ちょっと下火になって、またいろいろやろうということでやっているんですけど、そういうのもあったりするので。何か環境分野でも、例えばファジウオーカープロジェクトだと、クラブに対する愛着とか誇りとかも行動変容にかなりつながっていくんですね。だから、岡山市に対する愛着とか誇りというのも、もしかしたら行動変容につながる。だから、そこをうまく、そこに焦点を当てて行動変容を促すことによって、じゃあ、変わろうかという人間が数%かもしれない。それで、先ほど公共交通で実際住んでいるところで公共交通がないと、行動変容できませんよねという話で、それは当然なんですよ。けども、この環境問題も通じて全ての問題の根底は、実際変われる人間が変わっていないところなんです。だから、そこの人間が少し変わると、かなり効果があると思うので、そこにどうやってアプローチして行動変容を促すかというのを、これから政策の話になっていくので、考えていけばいいのかなというふうに思います。

○藤原会長 ありがとうございます。いろいろと交通のほうで進んでいるような意識改革の紹介をしていただいて、そこのところを環境でも取り入れられるものは取り入れていきたいというふうに思いました。

それで、ぜひ第3次の計画についてはそういう意識を変えていかないと、10年後は

大変なことになるという、何かそういう危機感みたいなもの、それも一つのインセンティブになりますよね。危機感を訴えるということもいいし、岡山市の愛着というところを訴えるのもいいし、何かいい方法はこれから考えるとして、そういうものを3次計画の一番の目玉に持っていくという。例えば、計画の最初の目的みたいなところに、しっかりとそこを記述するとか、そういう改革をそれぞれの部局にお願いして、何か入れてもらおうとか、何かそういうのがあるといいなというふうに思いました。

どうぞ、片岡委員、お願いします。

○片岡委員 そこに関連してなんですけど、自分の肌感なんですけど、最近若い20代とか、学生さんたちと会うと、例えば洋服は古着、リサイクルしているもののほうがいいのか、あと公共交通も自転車とかを使ったりとか、結構多分皆さんが教育を頑張られてきていらして、そういう教育を受けている若者は割とそういう環境認識が高くて、例えば省エネのこととかもすごく興味を持ちますし、逆にそういう、我々の世代もそうなんですけど、環境のことを全然学ばずに来てしまった大人たちがなかなか、もしかしたらまだまだ意識が変えられるのに変わっていないという人たちもいるのかなという気がするんですけど、逆に先ほどSDGsやESDが全国的に評価されているというような、そういう自信になるようなことをちゃんと、岡山はそうやって評価をされているよということが逆に自信になって、逆にそれができていないことが恥ずかしくなってというところから行動変容につながるみたいなことも、もしかしたらあるのかなというふうにちょっと思いました。特に若い子たちは、すごく意識が高いんじゃないかなと思う場面は多々あります。

○藤原会長 ありがとうございます。

尾形委員、お願いします。

○尾形委員 関連してですけれども、全体的に聞いていて、藤原会長の言葉にもありましたけれども、岡山市の強み、弱み、特質ですよね。比べるのがいいかどうかは分かりませんが、当然今日地域環境計画さんのほうからお話をいただきました。

こちらは、完全にコンサル会社ですので、当然岡山市以外にも各自治体さんにこういった関係でいろいろお仕事をされているんだろうと思います。となると、岡山市の強み、弱み、それから全国で言うと、岡山が特出していいところ、悪いところ、そういったところをしっかり示していただいた中で、それで岡山としてこれを目玉にやっていくんだというような、先ほどから行動変容の話がありましたけれども、皆さんが注目するというか、関心を持つようなPRというか、そういった環境に関する関心を持っていただくような施策が1つ、大きなものが何か要るのかなと。そこに関心を持っていただければ、中でやっていく小さいところですね。そういった項目も目にしていだけるのかなと思いますので、まず全体的な岡山市の位置づけですね。これが今日、私の中でも岡山市の特質がまだ見えてこないで、じゃあ、何をすべきなのかというところが少し理解が私自身できなかったかなというふうに思っておりますので、そういったところも検討いただければと思います。

○藤原会長　ありがとうございました。

池本委員、お願いします。

○池本委員　すみません。私は岡山市に住んでいないんですけれども、市外から見ていまして、SDGsとかESDにすごく努力してこられたというイメージが長年ありまして、先ほども言われましたけど、あまり思ったほどというようなことも言われていましたけれども、そういったところは必ず、恐らく次世代に実を結ぶぐらいに部外者としては思っております。それで、私は教育の専門家でも何でもないんですけれども、自然保護の啓発というところで、これはイメージとして聞いてください。一般市民の方は、なかなか変わりません。むしろ小学生、来てくださる小学生の方が学んで、それを保護者に伝えて、保護者は変わらないかもしれませんが、次世代となる小学校、中学生、高校生なんかは、特にSDGsなんかでも高校生とか中学生は頑張られている方もいると岡山市内では聞いていますので、そういったところをこちらの基本計画に、次世代についてのことも基本計画の中に、目標なり指標なりで結構なん

ですけれども、そういったところに入れて、皆さんで考えて入れていけるようにしていただけたらいいんじゃないかなと思っております。すみません、教育の門外漢がそんなことを申しまして、申し訳ございません。

○藤原会長 どうもありがとうございました。もっともだと思います。

ほかに、はい、妹尾さん、いかがですか。

○妹尾（桂）委員 私は、そんな専門的な話ができないので、皆さんの意見を聞きながら、そのとおりだなと思っていて、でも一般市民的な感覚で言って、あまり伝わらないのかな、あまりこんなことをしているんだみたいな、どこか他人事といたしますか。だから、自分の中に落ちてこないというところがあって、こういう計画とか、いろいろつくられるとは思いますが、それが果たして動く人たち、何と言えればいいのかな、市民の人たちというところまで下りてきていないのかなというのが率直な感想なんです。それで、啓発とか、そういうのも、そういうパンフレットとかを作ったりとかもしたんですけれども、作るだけというか、あまり、だからその先というのがあまりないなというのがあるので、やっていくからにはという部分をしっかりしてければいいのかなと思いました。

○藤原会長 ありがとうございます。よく分析されたご意見だと思います。

いかがですか。

○妹尾（安）副会長 失礼します。今日は骨子案ということで、もともとの審議事項ということで骨子案をずっと見ていたんですけれども、先ほどのいろいろな思い、骨子案の中に何とか盛り込んでいく必要があるのかなと思って見てました。とすると、具体的に対象分野は多分この5分野で整理されるんだろうと思いますから、環境目標、あるいは基本目標のところにそれを書き込んでいくようになるのかなと思って見えています。だから、基本目標のところに今挙げられているのが、交換されるとか、それに書き足されるかというふうなことが多分あるのかなと思っています。

あと、環境像、一番頭になる部分がまだ決めれないというのは結構痛いなと思って

いまして、このあたりが一番目玉になる部分にはなるんですけど、それが、誰がどうやって決めるのか、少し気にはなりました。

○藤原会長 これは、誰が決めるんですか。誰が、どの委員会で環境のことを決めるんですか。

○事務局（小野） 最初に申し上げましたが、総合計画と整合を図る必要があるという話はしていますが、こちらの環境像についても当然こちらの審議会で、事務局として案を出すことにはなるとは思います、それについてご説明をして、環境像を決定していくということにはなります。

○藤原会長 全体の計画案は出ていないんだけど、環境像はこちらで考えなきゃいけないということですね。

○氏原委員 多分総合計画なので、そんな具体的なことは何も決めれないと思います、

○藤原会長 スローガンとかね。

○氏原委員 大丈夫です、こちらで決めて。

○藤原会長 こちらで決めましょうか。

○氏原委員 こちらで決めて、整合性が取れないということはないと思うので、決めたらいいと思います。

○藤原会長 ここの1番、次期計画の中で1番、地球環境問題といろいろ書いてあるけれども、分かっている人は分かっているんですよね。だから、それが実行できないというところが問題。循環型社会も、個々にこうして動いていて、こうなればいいなというのはあるんだけど、そういうふうに持っていくときにどういうふうに持っていくたらいいのか、まだ手探り状態ですよ。それから自然環境も、これもみんなが意識して生態系の保全に努めるということはいろいろここに、見たら大体分かるんですけど、これもどう進めるかというところの問題があって、結局これ、計画をこの第3期においては、それを強力に進めるためにはどういうふうな未来がいいのかとか、未来としては、みんなが意識して、環境を意識しつつ行動できるような、そうい

う社会をつくるというのが全てに関わってくるのかなというふうに思いますが、そういう実行に結びつけるための何か、環境像のいい言葉を見つけたらいいのかなというふうに思います。具体的にはないんですけど、1つは環境意識の高い人たちを岡山では育てるんだということがいいんじゃないかと、いかがでしょうかということです。

まだ具体的に、これって前回はどういうものを書かれていたんですかね。前回の第2次計画の環境像、どこかに書いてありましたっけ。

○氏原委員 資料5です。

○藤原会長 資料5。

○事務局（小野） 参考資料の5で書いております。第2次環境基本計画の環境像としては、読み上げます。「豊かな自然と調和した持続可能なまち岡山」。

○赤井委員 これ、岡山のところを変えたら、全部、どこの市町村でも当てはまる、特徴のないあれですよ。

○原委員 今、その直近の話じゃないんですけど、今日は骨子案じゃなくて、その立てつけのところを検討してほしいと言われたので、意見だけ言うんですけど、国の分類に従って変えたとおっしゃったので、それは一つの正しいやり方ですから、国に沿ってやるというのは、もちろんそれで、そのままで異論はないんですけど、思ったことは、先ほどの誰のために、誰が読むんですかという話で、お役所の人を読むんじゃない場合に、今のこの環境問題って自然環境を保全しなきゃいけないということと、人間活動によって起こったことを減らしていく、悪影響を減らしていかないといけないという、その2つの2本立てであるというふうにも考えられると思うんですけど、地球環境、温暖化が一番トップに来ているんですけど、これって幾ら私たち岡山市民が頑張ったって限界がある話で、アメリカがぼんぼん掘って掘って掘りまくれと言ったら、これが駄目になっちゃうわけで、そういうことで言えば、私は3番の自然環境を1番に持って行って、取りあえず自分たちができる、岡山市でできる自然を守ろうよと言うことはできる。そして、その次に自分たちの生活を変えて、廃棄物を循

環させるとか資源をあまり浪費しないとか、そういったことはできるから、そういう循環型社会を持ってくる。それから、もちろん再生可能エネルギーを使うとか、そういうこともできる。あと、ここで4番の都市・生活環境というのがあるんですけど、この都市ってどこを表しているのかが分からなくて、岡山市全体を都市と呼んでいるのか、それとも中心部のことを呼んでいるのか、そこが私には分からないんですけども、項目としては公害とかになって、これは事業者の問題になってくるので、市民としてやるべきことと事業者がやるべきことがごっちゃになっている、香りとか歴史、文化とか、そんなこともそこには入っているんですけど、そこを整理して書いてあるほうが、市民としては分かりやすいんじゃないかなという気がして、それでこういったことの結果として、地球が温暖化しているよという話や、それから、ないんですけど、以前課長も言われていた災害の問題で、温暖化のために気候変動の後で災害が起きているとか、それから温暖化のために作物が取れなくなるとか食性に影響があるとかみたいなようなことというのも環境問題じゃないかと思うので、そのような項目も必要じゃないかなとかって思ったりするんですけど。

それで、最後につなぐ活動として、教育だとか市民の活動とか、先ほど言った仕組みづくり、ライフスタイルの変容とか、そういったものが5番に入るというふうになってもいいんじゃないかなというふうに思ったんです。つまり、自分たちが管理、マネージできる範囲のことと、みんな世界中で頑張らんといけんようなこと、それから市民と事業者とというようにところを整理して書いてあったら、分かりやすいんじゃないかなという、取り組みやすいんじゃないかなという、無理だと思いますけどね、国の立て分けがこうなっているんだったら。と思いました。

○藤原会長 いろいろなご意見があると思いますが、地球環境問題というのは個人が何かやってもそんな影響ないよという話ではなくて、個人それぞれが努力をしたら、全体の力で地球環境問題をコントロールできるというお話なので、それはそれで意味があると私は思います。

それと、あと自然環境については、自然環境の保護というのは、なかなか難しいと思います。例えば、生物多様性がどういうふう到我々の生活に影響するのかということとはよく分からない。生態系の保全というのは、そうして維持することが、これまでずっとそうしてきたから、それを保全することはいいですよということは分かるんだけど、それがどう実際に影響しているのかもよく分からないと。ただ、自然に親しむというのは昔からやってきているし、それを壊したくないという気持ちがみんなにあるから、それを保護しましょうという気持ちは全体として正しいと思います。ただ、これがどれぐらいほかのに比べて重要かという、その評価はなかなか難しいと思います。

あと、都市・生活環境というのは、要するに人が生活する場ということであって、あまり都市が都会か田舎かということは関係ないというふうに私自身は思っているんですけど、人が暮らすところは都市であり、生活空間であるというような話で捉えてもいいのかなと。都市という言葉が、大都会というに見る人がほとんどだと思いますけど、そういう点では言葉を選んだほうがいいのかな、ここら辺、氏原先生、何か都市という言葉に対してどう思われていますか。聞いてみたいと思うんですけど。

○氏原委員 多分、ここの都市・生活環境と考えた方の意図を酌むと、恐らく公害関係を入れているので、そういう意味で都市環境という意味合いをつけたかったのかなというふうに思っています。生活環境という面では、下のボツの快適環境だし、公害関係でいうと都市環境というのをつけたかったから、こういうネーミングになったのかなと思いますが、よく言われるのが、地球環境に対して地域環境、グローバルに対してローカルという表現をするので、地域環境という表現の仕方もあるかもしれないんですけど、生活環境というところを前面に出すのであれば、都市はなしにして生活環境でもいいかもしれないです。

○藤原会長 分かりました。今日は議論をいろいろして意見を出すということで、最終的に言葉選びも必要だと思いますが、今すぐ決めなくてもいいので、どういう意味

合いなのか、皆さんでコンセンサスを得て、それで変えたらいいと思います。ありがとうございました。

それで、一応これでこの計画というのは、それぞれ追加の必要性があったりするかもしれませんが、取りあえずこういう構成で行くということに対して、皆さん大きな反対はないということによろしいですかね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○藤原会長 ありがとうございます。

それから、その次の骨子案ですね。これに基づいて骨子案がつくってあるんですけど、ここに対しては、もう少し皆さんのご専門的な意見も入れていきたいというふうに思うんですけど、これに対して記入する欄を作ってもらって、忌憚のない意見をいただくというのがいいかなというか、我々ができることかなというふうに思うんですけど、皆さんご協力いただけますでしょうか。よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○藤原会長 書いたもののいい、悪いというのは、全然言いませんので、本当に自分が思うことを書いていただいて、そういう思うことが、そういう人たちが多ければ、それは多分重要な点だろうということで考えていきたいと思います。そういうことで、自分が関係ある、あるいは自分はこれは大事だと思うところに意見を書いていただいて、例えば環境目標ということがありますが、この細かい表現について、こういうほうがいいんじゃないかとか、そういう目標についてももう少し拡大したほうがいいんじゃないかとか、いろいろご意見があると思うので、この環境目標を原文にして、意見をいただきたいと。それから、基本目標については、この項目で十分かどうか、追加、削除も含めてご意見をいただきたいということでございます。

事務局のほうも、そういう形にすると、今後の計画の材料になりますよね。はい。じゃあ、そういうことで、市としてはそういう皆さんへの調査というか、ヒアリングというのをやっていただいたらありがたいです。

○事務局（小野） 分かりました。それでは、後日恐らくメールないし郵送にはなると思いますが、こちらについてはまた回答の枠を作るか、別紙の解答用紙を作るか、対策した上で各委員の皆様にご調査をさせていただきたいと思います。

○藤原会長 ありがとうございました。

今日は、物すごく議論が活発にされて、内容のあるものになっていると思いますが、時間もかなり過ぎておりますので、議論は大体これぐらいにしたいと思いますが、事務局、それでよろしいですか。こんな感じで、今日のところは。ほかに議題ってありましたっけ。次年度スケジュールも特によろしいですね。

○事務局（小野） はい。スケジュールはこういうスケジュールですという予定をお示ししているだけです。

○藤原会長 分かりました。

それでは、本日は課題ができてしまいました。ぜひご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、これで審議を終わります。

事務局には、審議会の意見を十分に踏まえて、今後の対応をお願いいたします。

（以下略）

午後 4 時37分 閉会